OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

主題科目担当への薦め

佐　藤　優　行*

いままで専門科目しか担当してこなかった多くの教官にとって、教養教育への参加は確かに大きな負担です。その点ではデメリットかもしれません。でもあえて優等生的な言い方をしますと、教養教育の改革が実施されることになった以上、この際私達の意識の方を変革させ、メリットの方を考えてみるのも得策ではないでしょうか。たとえば自分の学部学科の学生だけでなく、他学部の学生にまで教えることができるとか、授業担当を機会に自分が関心を持っているテーマについて探求し、まとめてみるという利用法もあります。その他各自が都合の良いようにいろんな目的に利用すればいいと思います。

主題科目は、現代にふさわしいテーマの下にこれをさまざまな分野視点から考察することにより、学生が総合的に問題意識を形成していくことを目指しています。つまり学生にメッセージを送ることにより幾分かでも彼らの視野を広げ、脳細胞を刺激することができたら成功です。そのメッセージは必ずしも教官の専門の学問体系に沿ったものである必要はありません。教官自身が１先輩として学生にもぜひ考えてもらいたいと思うような内容であれば最高です。その意味で主題科目は、教養ゼミナールとともに、専門分野にこだわらず誰でも参加できる科目です。

私も主題科目の担当をはじめて経験しました。「現代の生命観」という主題の中で「生命現象のしくみ」という授業科目を分担（３教官で担当）したのです。いままで私なりに考えてきた生命観をまとめる良い機会にもなりました。４学部にわたる 180人前後の学生を相手に、毎回緊張の連続でした。幸い文系の学生も含めてある程度の反応を示してくれて、ある種の充実感を味わうことができました。この場合は私の専門分野と関連する授業内容でしたが、もっと専門とかけ離れた、自分の趣味領域（たとえば映画論とか、作家論などなど）の内容であっても、それが学生の人格形成にとって何らかの参考になると思えるものであれば、そういうものを集めて主題を構想することもできるのではないかと、考えています。

近く「主題科目に関する意向調査」が実施される予定です。多才な先生方のさまざまな個性を学生たちにぶっつける絶好のチャンスです。ぜひとも積極的な参加を期待いたします。

*教授　農学部（細胞資源科学）